

●一つ一つのツボには個性的な作用があります！

針灸経穴辞典

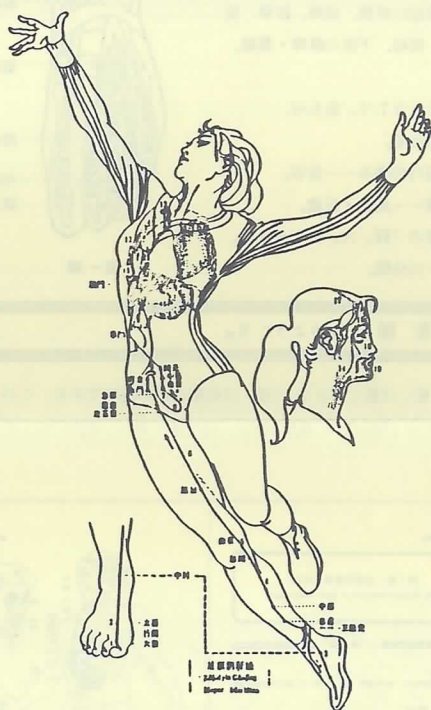
山西医学院李丁・天津中医学院 編

王建華・何自強 図

浅川 要・生田智恵子・木田 洋・横山瑞生 訳

臨床に生きる
名著

中国はいま、膨大な歴史的文献を総ざらし、加えて現代におけるあらゆる研究成果を結集して、針灸学の新たな体系化に取り組んでいる。それは「理－法－方－穴－術」を貫ぬく一連の法則性の確立である。本書はその重要な構成部分である「穴」に関して、あらゆる知識を集約した画期的な経穴解説書であるとともに、臨床に直結した実用性に富む辞典である。



- 経穴361穴、経外穴61穴、計422穴のすべてに〈穴名由来〉〈出典〉〈別名〉〈位置〉〈解剖〉〈作用〉〈主治〉〈操作〉〈針感〉〈配穴〉を解説。
- 〈穴名由来〉はツボの効能を理解するためにも不可欠の知識。全穴の穴名解説は本邦初の企画。
- 長年の臨床研究によって、ついに全穴の〈作用〉〈効能〉が確定された。これは歴史上初めてであり、針灸臨床に画期をもたらす針灸学史上の壮挙である。
- 附録の〈穴位作用の分類表〉は、効能別にツボをグループ分けしたもの。配穴の根拠を提供する。
- 過去の経穴図のイメージを払拭し、人体を動態的にとらえた暫新な図柄。任督脈は初めて女性の図で描く。国際的な注目を浴びた話題の経穴図。

A 5判・上製・函入・520頁・206図

定価 7,004円(千共)

(本体6,800円)

〒272 市川市宮久保3-1-5

東洋学術出版社

電話 (0473)71-8337

FAX (0473)72-7060

8. 地機(ちき) Sp8

【穴名の由来】本穴には気血を旺盛にし、生機を興振させる効が
万物の生気化生を活性化させるのに似ているので、こう

【出典】『甲乙』:「足太陰の郛, 別かれて上に一寸走り, 空は膝

【別名】脾舎(『甲乙』), 地箕(『入門』)

【位置】脛骨内側面の後縁, 陰陵泉の下3寸。(図144)

【解剖】脛骨後縁とヒラメ筋の間にある。前方に大伏在静脈と下
枝があり, 深層には後脛骨動・静脈がある。伏在神経の
経が分布し, 深層後方には脛骨神経が通っている。

【作用】利脾理血, 調變胞宮。

【主治】腹部膨満, 食欲不振, 赤痢, 月経不順, 排尿困難, 遺精

【操作】直刺で0.5~1寸。灸も可。

【配穴】月経不順, 月経痛……腎俞・関元・三陰交・血海。

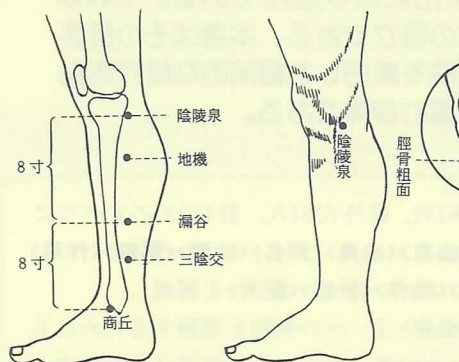


図-144

図-145

●最もポピュラーな経穴辞典

●重版を重ねるロングセラー!

足陽明胃経 209

41. 解谿(かいけい) S41

【穴名の由来】窪んだ場所のことを「谿」といい, 「解」は開放する意味を含ん
でいる。当該穴は足背で足の甲の骨の所。2筋の間の陥凹部にあり,
通常はこの場所から鞋紐を解くことから, 解谿と名づけられた。

【出典】『靈樞・本輸』より。

『甲乙』:「衝陽の後一寸五分, 腕上の陥たる者の中に在り」

【別名】鞋帯(『六集』)

【位置】足関節前面の横紋の中央。(図98)

【解剖】長指伸筋腱と長母指伸筋腱の間に当たる。前脛骨動・静脈がある。浅
部に浅腓骨神経, 深部に深腓骨神経
がある。

【作用】健脾化湿, 清胃化痰, 理氣通絡, 活
血止痛。

【主治】頭部・顔面の浮腫, 頭痛, 眩暈, 腹
部膨満, 便秘, 下肢の麻痺・萎縮,
癰疽。

【操作】直刺0.5~0.7寸。灸も可。

【針感】足指に伝わる。

【配穴】頭痛, 眉弓の痛み……合谷。
足関節痛……商丘・丘墟。

【備考】足陽明経の「経」穴。灸1~3壮。
温灸5~10分間。

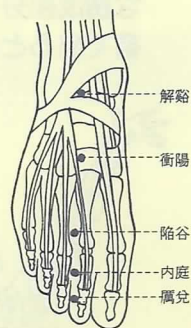


図-98

42. 衝陽(しょうよう) S42

【穴名の由来】「衝」は動くことで, 「陽」は陰陽の陽の意味である。このツボ

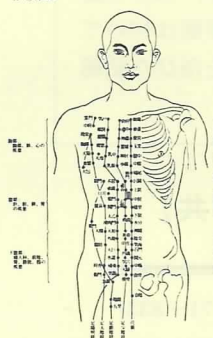


図-1 経穴字彙

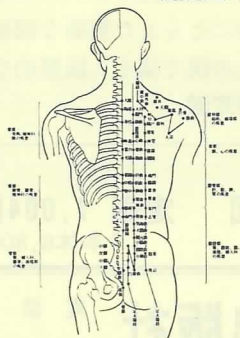


図-12 経穴字彙

第7節 足陽明胃経(45穴)
The Stomach Meridian of Foot-Yangming(S)

【本経の概要】
足陽明胃経は、頭部、顔面、頰、鼻、口、唇、下唇、下唇の両側に
分布する。

【経路の概要】(図13)

1. 鼻翼の側縁に起り(図13-1)、上唇に鼻唇溝に到る。
2. 唇の両側縁に起る(図13-2)。下唇から鼻唇溝の両側に沿って進む(図13-3)。
3. 上唇の両側に進入する。
4. 皮肉を剥いて血管を露出する。
5. 下唇の両側に進入する。鼻唇溝の両側に沿って進む(図13-4)と進む。
6. 鼻唇溝の両側に進入し、鼻唇溝の両側に沿って進む。下唇の両側に沿って進む(図13-5)と進む。
7. 下唇の両側に進入する(図13-6)に沿って進む。
8. 上唇の両側に進入し、鼻唇溝の両側に沿って進む(図13-7)と進む。
9. 鼻唇溝の両側に沿って進む。
10. 鼻唇溝の両側に沿って進む(図13-8)に到る。

【経路の概要】

11. 大迎穴(胃経5)の前から下唇の両側に沿って進む。
12. 下唇の両側に進入する。

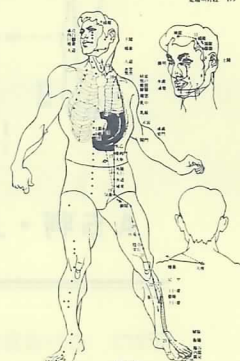


図-13